

発行にあたって

澤藤電機グループは、持続可能な社会の実現に向けて事業活動を通してCSR活動に取り組んでいます。

お客様、地域社会、株主・投資家様、社員をはじめとした幅広いステークホルダーの皆様に適切な情報開示を行い、CSR活動をご理解いただくためのコミュニケーションツールとして「CSR報告書」を発行しています。

本CSR報告書は、トップメッセージ、基本理念、CSRへの取り組み、マネジメント、経済、社会、環境について、その活動内容を記載しております。

また、発行形態につきましては、澤藤電機ホームページに全体版(日本語)、ダイジェスト版(日本語、英語)をPDFで掲載しています。印刷冊子はダイジェスト版(日本語)として発行いたしました。

対象範囲・期間など

澤藤電機グループ(澤藤電機株式会社および国内・海外の連結対象子会社)を対象範囲としてご報告いたします。

環境保全活動については、澤藤電機の本社・新田工場内での取り組みのご報告となっております。

本報告書の対象期間は、2022年度です。一部前後も含まれます。

発行年および次回発行予定

CSR報告書は毎年の発行予定となっております。

今回の発行 2023年 9月

次回の発行予定 2024年 7月

参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン(2018年版)」

ISO26000「社会的責任に関する手引き」

バックナンバー

- CSR報告書2022(2022年 9月)
- CSR報告書2021(2021年 8月)
- CSR報告書2020(2020年 8月)
- CSR報告書2019(2019年 8月)
- CSR報告書2018(2018年 8月)
- CSR報告書2017(2017年 8月)
- CSR報告書2016(2016年 8月)
- CSR報告書2015(2015年 8月)
- CSR報告書2014(2014年 8月)
- CSR報告書2013(2013年 8月)
- CSR報告書2012(2012年 8月)
- CSR報告書2011(2011年 7月)
- CSR報告書2010(2010年 7月)
- CSR報告書2009(2009年10月)
- 環境・社会報告書2008(2008年 8月)
- 環境報告書2007(2008年 1月)
- 環境報告書2006(2006年 9月)
- 環境報告書2005(2004年12月)
- 環境報告書2003(2003年10月)

目次

- トップメッセージ…………… 2
- 基本理念…………… 3
- SAWAFUJI VISION…………… 3
- 中長期的な取り組み…………… 4
- 中長期経営計画～長期構想「チャレンジ2030」…………… 5
- サステナビリティ経営…………… 5
- 安心してチャレンジできる企業基盤…………… 6
- 環境戦略と財務戦略…………… 6
- 優先取り組み課題と目標…………… 7
- 2030年に目指す姿…………… 7
- SDGsへの取り組み…………… 8
- カーボンニュートラル(脱炭素)の取り組み…………… 10
- CSRへの取り組み…………… 12
- 経済性報告**
- 経済性報告について…………… 13
- 澤藤電機と関係会社の概要…………… 13
- 主要製品…………… 14
- 業績報告…………… 15
- 営業形態および主な取引先…………… 15
- 環境報告**
- 環境方針…………… 16
- 環境マネジメント…………… 16
- 製品開発における環境取り組み…………… 20
- 生産活動における環境取り組み…………… 22
- 物流活動における環境取り組み…………… 24
- 環境コミュニケーション活動…………… 24
- 生物多様性…………… 25
- 環境データ…………… 26
- 社会性報告**
- お客様とともに…………… 27
- 地域社会とともに…………… 29
- 株主・投資家様とともに…………… 31
- 代理店・特約店様とともに…………… 31
- 仕入先様とともに…………… 32
- 社員とともに…………… 33
- ステークホルダーとの対話…………… 37
- クオリティフォーラム…………… 37
- ガバナンス**
- コーポレート・ガバナンス…………… 38
- コンプライアンス…………… 39
- 情報セキュリティ…………… 39
- リスク管理…………… 40
- 事業継続計画(BCP)に向けた取り組み…………… 41
- トピックス**
- 『GO OUT CAMP 2022』に出展…………… 42
- 『TOKYO OUTDOOR SHOW 2023』に出展…………… 42
- 『ジャパンキャンピングカーショー 2023』に出展…………… 43
- 『ENGEL DAY』イベントを開催…………… 43
- ワクチンの職域接種を実施…………… 44
- 新型コロナウイルスワクチン『追加接種促進プロジェクト』に協賛…………… 44
- 『脱炭素ライフスタイルフェア』に出展…………… 44

トップメッセージ

澤藤電機グループは、世界のお客様の期待に応えた製品・サービスを提供し、真摯にCSR活動に取り組み、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

澤藤電機は、1934年の創立から実直なモノづくりに徹し、世界のお客様の期待に応えた製品・サービスを提供してまいりました。

現在は、電装品、発電機、冷蔵庫の3つの事業を柱とし、国内をはじめ海外100カ国余のお客様に製品・サービスを提供しております。

社会から信頼される企業をめざして

経営理念である「澤藤電機は良い商品を作り、企業としての社会的責任を果たし、関係する全ての人に栄を与える」のもとに、すべてのステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図ることはもとより、企業倫理向上、コンプライアンス、内部統制体制の充実、安全・防災活動を含むリスク管理の徹底、環境保全、製品の安全、顧客満足、株主重視、社会貢献などの活動を通して、社会から信頼される企業をめざします。

環境への取り組み

持続可能な社会づくりの一つとして、環境への取り組みも不可欠です。澤藤電機は、1997年に環境マネジメントシステムを構築し、全事業の商品および生産活動における環境負荷低減を重要課題として、継続的な改善に取り組んでおります。

次世代につながる社会づくりを推進

当社グループを取り巻く経営環境は、直近では国内、海外共に新型コロナウイルス感染症による影響からの持ち直しの動きが見られましたが、急激な円安やウクライナ情勢の長期化などによりエネルギー価格や原材料価格は高騰が続き、さらに物流コストの上昇などもあり、依然として厳しい状況が続いております。

一方で、カーボンニュートラルを含むESG課題の解決など、企業に求められる社会的責任が、より高まりつつあります。

当社は、独自のエネルギー変換技術を進化させ、世界で働くモビリティ/プロフェッショナルユーザーの困りごとを永続的に解決することが、社会から求められる使命と考え、そのめざす姿を、全てのステークホルダーと共有し共感していただくため、中長期経営計画～長期構想「チャレンジ2030」を新たに策定いたしました。

当社の存在意義を、『働くモビリティ社会の中で課題解決の一翼を担い続ける』と定義し、社員が安心してチャレンジできる「企業基盤」を整え、「環境戦略」と「財務戦略」の二つの柱で事業ポートフォリオを変革します。

将来の社会課題解決に貢献し続け、サステナブルな企業をめざします。

澤藤電機のCSRの取り組みに対し、より多くの皆様方のご意見をいただき、新たな課題としていきたいと考えております。どうか忌憚のないご意見をお寄せいただきますようお願い申し上げます。



2023年8月

澤藤電機株式会社
代表取締役社長 兼 執行役員社長
井上 雅央

基本理念

澤藤電機グループは、企業姿勢を示した「社是」と企業の使命を表明した「経営理念」を企業活動の基本と考えています。この「経営理念」の遂行に向け、全社一体となった取り組みをしています。

社 是

制定 1960年 7月

1. 研究を進め技術を練磨し輝かしく躍進しよう
2. 顧客に対する責務と信義を守り社会に貢献しよう
3. 労使協調相互信頼により明るい職場を樹立しよう

経営理念

制定 1990年10月
改定 2001年 4月

澤藤電機は良い商品を作り、企業としての社会的責任を果たし、関係する全ての人に栄を与える。

- * 顧客に感動を
- * 自然に清らかさを
- * 社業に携わる人に栄を

SAWAFUJI VISION



目 指 す 方 向 性

培ってきたコア技術を生かし、
「『電気』に関すること」の
ソリューション企業を目指します

電 気 を

つ く る

あらゆるエネルギーを
『電気』に変換する技術

た め る

つくった『電気』を蓄える技術

つ か う

『電気』を使ったより快適な
生活環境を作り出す技術

中長期的な取り組み



売れて

- お客様の to Be (ありたい思い) を見抜き、ことづくりに繋がる魅力ある商品づくりを目指す

儲かって

- 収益構造を見える化し、強靱な利益体質へ向けて改革活動を徹底展開する
- 世界最適価格で提供できる仕組みづくりを実現する

安心できる

- 事業活動とカーボンニュートラルとの関わりを明確にし、環境改善に貢献する製品の開発と事業活動における環境負荷低減などにより、社会貢献と持続的成長を目指す
- 人材育成に注力しつつ、従業員が永続的に笑顔で働ける会社にする為の施策を実行する

中長期経営計画

中長期経営計画 ～ 長期構想「チャレンジ2030」



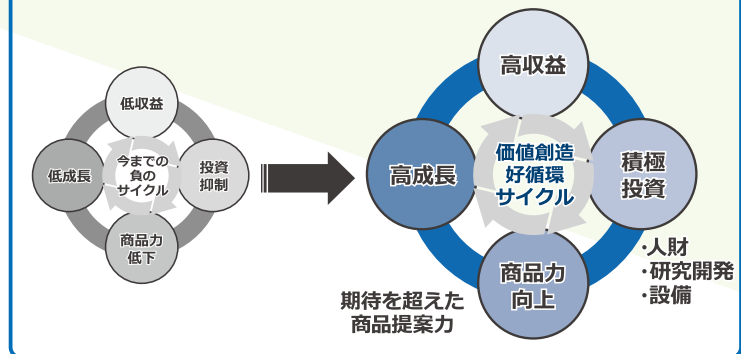
当社が目指す将来の姿を、全てのステークホルダーと共有し共感いただくため、新たに策定しました。2050年のカーボンニュートラルに向け、働くモビリティである商用車・農建機などのメーカーやプロフェッショナルユーザーが抱える課題解決の一翼を担い続けることを存在意義とし、社員一人ひとりが意識・行動を変え、総力を結集し、魅力ある澤藤に進化します。

＜澤藤電機の存在意義＞
働くモビリティ社会の中で
課題解決の一翼を担い続ける



＜スローガン＞
エネルギー変換技術を進化させ、
世界で働くモビリティ/
プロフェッショナルユーザーの
困りごとを解決

意識・行動変革



一人ひとりが意識・行動を変え、総力を結集
自ら光り輝き、魅力ある澤藤に

サステナビリティ経営

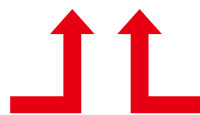


社員が安心してチャレンジできる企業基盤を整え、環境戦略と財務戦略の二つの柱で、事業ポートフォリオを変革します。働くモビリティ/プロフェッショナルユーザーの困りごと解決を通じて、将来のカーボンニュートラル実現に貢献し、未永く存続する企業を目指します。

社会課題解決

環境戦略

価値創造による持続的な成長
・カーボンニュートラルに対応
・コア技術を進化させ困りごと解決



事業
ポートフォリオ
変革

財務戦略

財務健全化と収益構造改革
・スリムで筋肉質な経営基盤を確立

安心してチャレンジできる企業基盤

- ・人財育成など人的資本の強化
- ・揺るぎないガバナンス強化 (コンプライアンス、情報セキュリティなど)

安心してチャレンジできる企業基盤

風土改革の積極的な推進により、人的資本とガバナンスを強化します。
 多様な社員が、健康で自己実現できる環境を整え、
 コンプライアンスを徹底し、安心して誇りに思える会社づくりを進めます。

人的資本の強化

- 『一人ひとりが自己実現』
- ・学びと挑戦
 - ・人権尊重
 - ・健康



ガバナンスの強化

- 『安心して誇りに思える会社』
- ・コンプライアンスファースト
 - ・情報セキュリティ強化
 - ・社会貢献

環境戦略と財務戦略

澤藤電機のコアであるエネルギー変換技術を更に進化させ、
 環境改善に貢献する電動システムのグローバル展開を目指します。
 同時に、積極的な成長投資や在庫見直しなど、財務健全化も推進し、
 将来の社会課題解決に向け、事業ポートフォリオを変革します。

環境戦略

- 『電動化普及の大波に乗る』
- ・コア技術の進化
 - ・差別化による競争力の確保
 - ・グローバル展開

財務戦略

- 『財務の健康経営を実行』
- ・積極投資 (人財・研究開発・設備)
 - ・営業利益率の向上
 - ・在庫適正化
 - ・売掛金/買掛金バランス改善

中長期経営計画



優先取り組み課題と目標

中長期経営計画の実現に向け、サステナビリティ経営を加速するため、必要な優先取り組み課題と目指す姿、目標を設定しました。これらは、ESG及びSDGsの推進にも繋がります。全社員の総力を結集し、社会課題の解決に取り組みます。

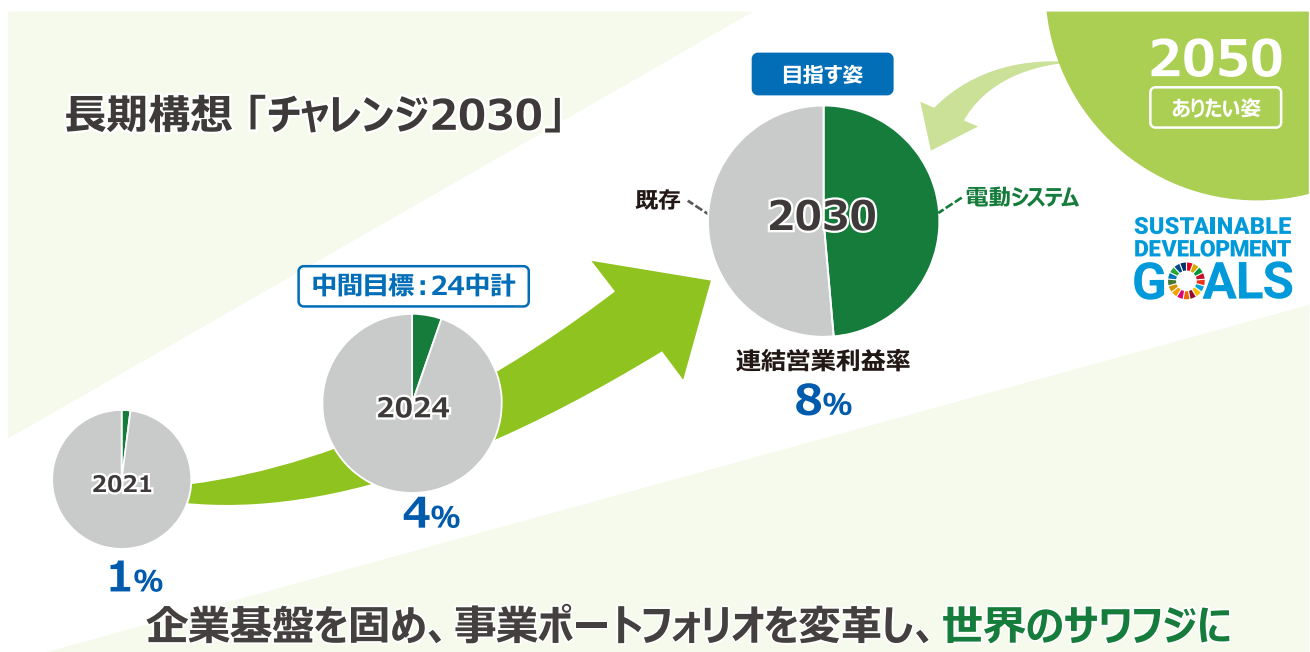
	取り組み課題*1	目指す姿*1	2030年度目標*2	SDGs
環境・財務	地球温暖化防止	<ul style="list-style-type: none"> 働くモビリティの電動化に貢献しCO₂を可能な限り削減 性能向上と環境負荷低減の両立する開発・設計を推進 生産活動や製品・サービスにおいて、地球環境の保護に努める継続的な改善を約束 お客様に喜んでいただける高品質な製品を提供 	2050年カーボンニュートラルに向け <ul style="list-style-type: none"> 企業活動におけるCO₂排出量の削減*3 2013年度比 ▲50% (▲48%) 電動システム製品普及 売上高 220億円 (18億円) 	
	環境負荷物質低減			
	大気汚染防止			
	資源有効利用			
	水資源の節約			
安心してチャレンジするための企業基盤	人財育成／人財活躍推進	<ul style="list-style-type: none"> 社員一人ひとりが安心して、健康で能力を最大限発揮できる職場環境づくりを推進 社員をはじめバリューチェーンなどを含むすべてのステークホルダーの人権を尊重した事業活動を行う 仕入先様と共に相互の発展・成長を目指し、環境問題、人権問題、コンプライアンス等に配慮した事業活動を行う 各国の法令を順守、安全保障を意識し、一人ひとりが高い倫理観をもって社会的責任を果たす 情報資産の保護に最善を尽くす 社会動向や外部環境変化、澤藤電機の企業風土を踏まえ、実効性のあるガバナンス体制へ進化させ、上記優先課題の目標達成を支える 	<ul style="list-style-type: none"> ワークエンゲージメント 肯定回答率*4 70% (65%) 女性管理職比率 20% (3%) 従業員定着率 90%以上 (90%) 人権研修参加率 100% (100%) 重大災害 0件 (0件) 重大法令違反 0件 (0件) 重大セキュリティインシデント 0件 (0件) 	
	働き方改革／働きがい向上			
	人権尊重 持続可能な調達			
	健康／安全衛生			
	コンプライアンス			
	情報セキュリティ強化			
	ガバナンス			

*1. 継続中のESG課題やCSRなどの取り組みと目指していること *2. ()内、2024年度目標 *3. Scope 1 + 2 + 3 *4. 澤藤電機(株)従業員の意識調査

2030年に目指す姿



強固な企業基盤構築と同時に、培ったコア技術を活かした環境対応商品と、財務健全化により、電動システムを主軸とした事業ポートフォリオに変革します。この取り組みを通じ、2030年には連結営業利益率を8%に伸ばし、将来のカーボンニュートラル社会に欠かせない、世界のサワフジを目指します。



<注記>円グラフ: 販売割合イメージ

SDGsへの取り組み

SDGsとは

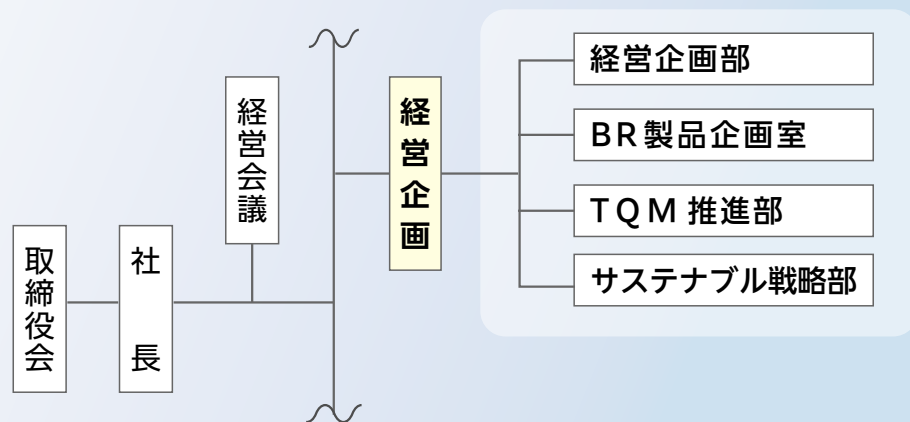
SDGs (Sustainable Development Goals)は、「持続可能な開発目標」として2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき全世界共通の目標です。誰一人取り残さない持続可能な社会の実現のため、国はもちろん企業ひいては各個人においても、この目標を共有し、それぞれの立場から積極的に取り組んでいくことが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



推進体制

- 2023年度以降：同一部門へ統合し連携強化



SDGs への取り組み

取り組み内容

当社は企業活動を通して当社ならではの価値を提供し、持続可能な社会の実現に寄与します。そのためには、企業の長期的成長が必要であり、ESG（環境、社会、ガバナンス）を意識した上での取り組みが必要となります。よって2021年度に設定した重点取り組み課題をESGの観点で分類し、更にガバナンスにおける新たな課題として「風土改革」を設定しました。その上で改めて各課題ごとに目標を明確にし、目標達成までの中長期ロードマップを作成いたしました。（各課題ごとの目標、中長期ロードマップは当社ホームページにて公表しています）

これらの課題の中で、『CO₂削減目標の達成』は全社のみならず、仕入先様との取り組みが特に欠かせません。2022年度からは、仕入先様への環境説明会、並びに支援活動などを行い、カーボンニュートラル(脱炭素)に向けて取り組みを進めております。



重点取り組み課題とSDGsとの関わり



		重点取り組み課題	関連性の高いSDGs
環境 (E)		CO ₂ 削減目標の達成(CNの推進)	13 気候変動に具体的な対策を
		環境改善に貢献する製品の開発	7 エネルギーと気候変動、7.2.1. 再生可能エネルギーの割合を増やすこと、9 産業と資源効率の改善を促すこと、11 住み続けられるまちづくりを、12 つるぎある持続可能な消費と生産、13 気候変動に具体的な対策を
		3R（リユース、リサイクル、リデュース）の推進	12 つるぎある消費と生産
		事業活動における環境負荷低減	3 持続可能なエネルギーを確保すること、4 質の高い教育をみんなに、9 産業と資源効率の改善を促すこと、11 住み続けられるまちづくりを、12 つるぎある消費と生産、13 気候変動に具体的な対策を、14 海の豊かさを守ろう、15 陸の豊かさを守ろう、17 パートナーシップで目標を達成しよう
企業基盤	(S)	女性が働きやすい環境整備	5 女性のリーダーシップを促進しよう、10 人や国の不平等をなくそう
		総合的人財育成システムの構築	4 質の高い教育をみんなに、8 働きがいも経済成長も、10 人や国の不平等をなくそう
		デジタル(IT・IoT・AI)技術の活用	8 働きがいも経済成長も、9 産業と資源効率の改善を促すこと
	(G)	風土改革	3 持続可能なエネルギーを確保すること、4 質の高い教育をみんなに、8 働きがいも経済成長も、10 人や国の不平等をなくそう、16 平和と公正な社会を築こう

カーボンニュートラルの取り組み (脱炭素)

取り組み内容

地球温暖化の原因のひとつは、CO₂などの温室効果ガスといわれています。このままの状況が続けば、更なる気温上昇が予測されており、今までにない大きな気候変動、生態系の破壊、食糧・水不足など深刻な影響をおよぼします。

当社は「カーボンニュートラルの達成」に向けて、さまざまなチャレンジに目標を定め、中長期的な計画とロードマップを作成し、全力で取り組んでまいります。

- 2050カーボンニュートラルを目指す
- 生産活動における排出 (Scope 1 & 2) 及び、サプライチェーンの排出 (Scope 3) の削減を推進

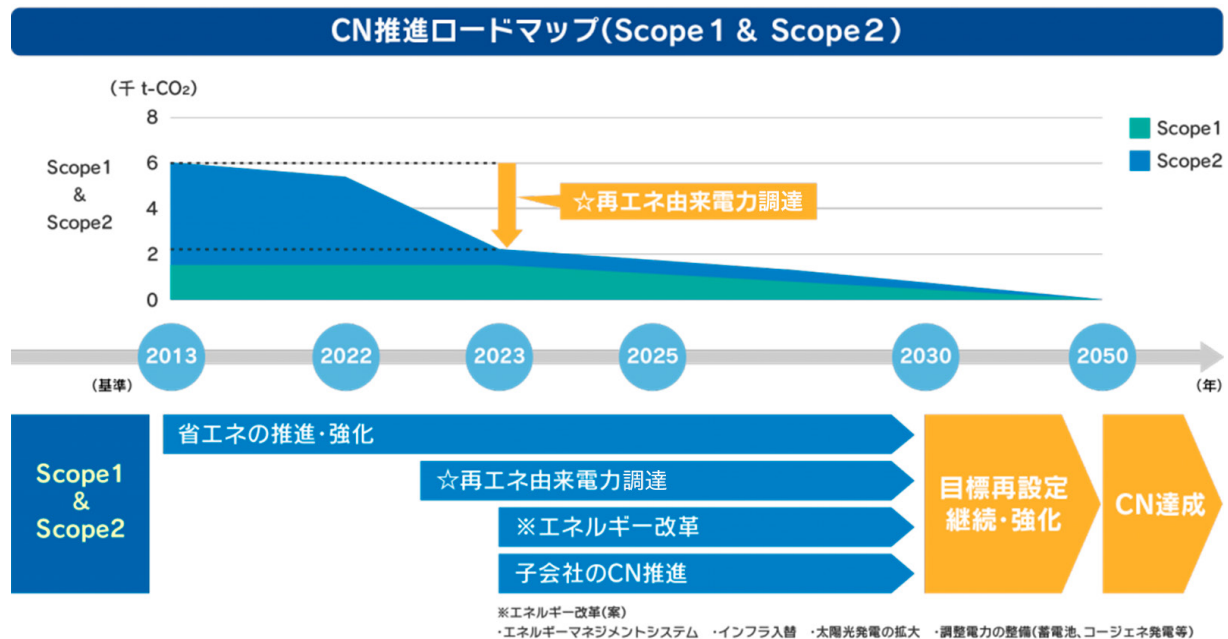
Scope 1 事業者自らによる温室効果ガスの直接排出 (燃料の燃焼、工業プロセス)

Scope 2 他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出

Scope 3 Scope 1、Scope 2 以外の間接排出 (事業者の活動に関連する他社の排出)

生産活動における排出 (Scope 1 & 2) ロードマップ

生産活動における排出 (Scope 1 & 2) については、省エネの推進・強化、エネルギー改革等を推進し、2050カーボンニュートラルを目指します。



取り組み事例 再生可能エネルギー由来電力の導入(調達)

2022年12月 当社Webページ公表内容

当社は、2022年12月1日より、本社・新田工場の購入電力を実質CO₂排出量ゼロの電力プランを導入しました。購入電力として、東京電力エナジーパートナー株式会社(本社：東京都中央区、代表取締役社長：秋本展秀、以下「東京電力」)の「グリーンベーシックプラン」*を契約し、太陽光発電、風力発電、水力発電など再生可能エネルギー由来の電力であることを示す非化石証書付きの電力を全量(100%)調達しました。これにより、購入電力(2021年度実績 約10,544 MWh)によるCO₂排出量は実質ゼロとなり、年間約4,600 tのCO₂排出量削減効果を見込んでおります。

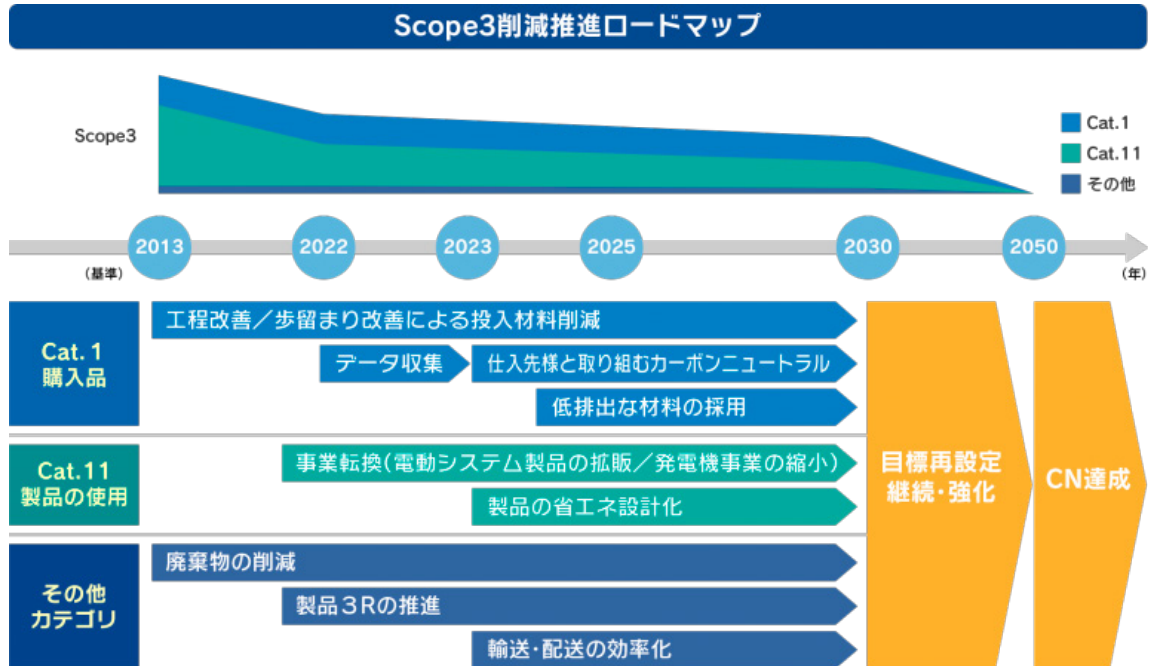
*グリーンベーシックプラン 東京電力が提供する再生可能エネルギー由来の発電による実質CO₂排出量ゼロの非化石証書(環境付加価値)を使用した電力プランです。

カーボンニュートラル(脱炭素)への取り組み

■ サプライチェーンの排出(Scope 3)ロードマップ

当社Webページにて公開中

サプライチェーンの排出(Scope 3)の算定を行い、大きな割合を占める、カテゴリー 1「購入品に関する排出」・カテゴリー 11「販売した製品の使用に関する排出」を重点として、2050カーボンニュートラルに向けた取り組みを開始しました。



取り組み事例 **仕入先様と取り組むカーボンニュートラル(環境説明会の開催)**

主要な仕入先様を対象に、カーボンニュートラルの取り組みの説明、およびご協力をお願いのため、環境説明会を開催いたしました。環境説明会では、各仕入先様の取り組み状況や排出量データのご提示等、多大なご協力をいただき、脱炭素に向けた活動を開始することができました。また、2023年度からは仕入先様を対象とした脱炭素支援にも取り組んでおります。見通しが難しい環境取り組みではありますが、仕入先様とともに脱炭素に向けて活動を推進してまいります。

■ 第一回 環境説明会(2022年4月14日)

新型コロナウイルス感染拡大防止のためオンラインで開催



会場風景



山口常務執行役員の挨拶の様子

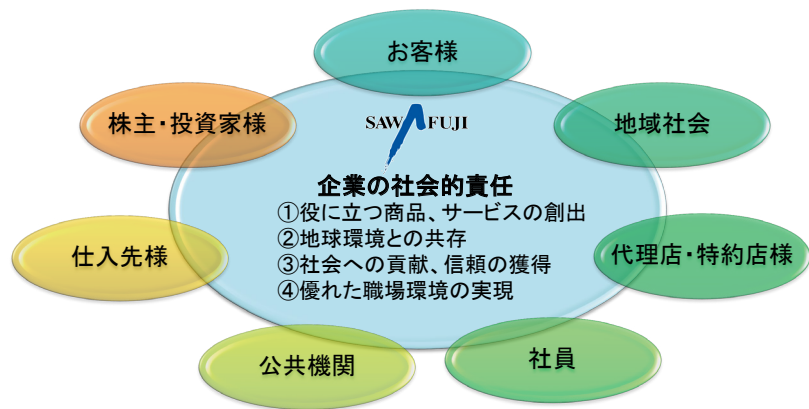
CSRへの取り組み

取り組み内容

澤藤電機は、「良い商品を作り、企業としての社会的責任を果たし、関係する全ての人に栄を与える」を基本理念として掲げています。

このことは、今日言われますCSR（企業の社会的責任 Corporate Social Responsibility）の精神に合致するものです。豊かで住みやすい社会の実現に貢献し、世界中のお客様の期待に応えることができる真のグローバル企業として成長していくことが、我々の使命であると考えています。このように、社会的責任を達成するためには多くのステークホルダーとの連携・協力が不可欠です。これからも、企業活動を支えていただいているさまざまな立場の皆様とともに成長していくことを念頭におき、社会に対して責任を果たすことによって、企業価値の持続的向上に努めてまいります。

CSR 経営 (ステークホルダーとともに)



CSR メッセージ

人と社会と地球に喜ばれる企業をめざして

私たち澤藤電機グループがCSR経営を進めていく上で、ステークホルダーの皆様に対する私たちの思いをCSRメッセージとしてお伝えいたします。

- 【お客様とともに】 私たちは、お客様の満足と信頼を第一に、お客様の期待に応えた製品・サービスなどの提供に努めます。
- 【地域社会とともに】 私たちは、環境への配慮、社会への貢献および法令遵守の3つの側面から地域社会、国際社会に貢献することを表明します。
 - 環境的側面での貢献 事業活動を通じ、環境保全に努め、環境にやさしい製品の開発・提供を行うとともに、環境負荷の低減、地球温暖化防止、生物多様性の保全など、地球環境と調和しながら成長をめざします。
 - 社会的側面での貢献 地域社会に貢献する良き「企業市民」たることをめざし、地域社会との密接な連携と協調を図り、地域発展の一翼を担います。
 - 法令の遵守 法令その他の社会的規範を遵守するとともに、その精神をも尊重の上、公正で健全な企業活動を行います。また、官公庁・地方自治体など公共機関とは、健全で良好な関係を保ち、不正な利益供与は決して行いません。
- 【株主・投資家様とともに】 私たちは、株主・投資家様の利益のために、長期安定的な成長を通じ企業価値の向上をめざします。また、適時適切な情報を開示して、企業活動の透明性に努めます。
- 【代理店・特約店様とともに】 私たちは、代理店・特約店様の立場を尊重し、相互信頼・共存共栄のもとに信頼関係を築き相互の発展・向上をめざします。
- 【仕入先様とともに】 私たちは、事業活動を進めていく上で、取引にあたっては公正性と透明性を確保し、仕入先様の立場を尊重し相互信頼・共存共栄を基本理念に信頼関係を築き、相互の発展・向上をめざします。
- 【社員とともに】 私たちは、社員一人ひとりの人格・個性を尊重し成長を支援するとともに職場の安全、社員の健康を守り、健全な職場環境を確保します。